

やまぐち

YAMAGUCHI

令和3年
3月13日

特別編集
山口散策マップ

編集発行
山口も〜やっこ地域力協議会
広報やまぐち編集委員会

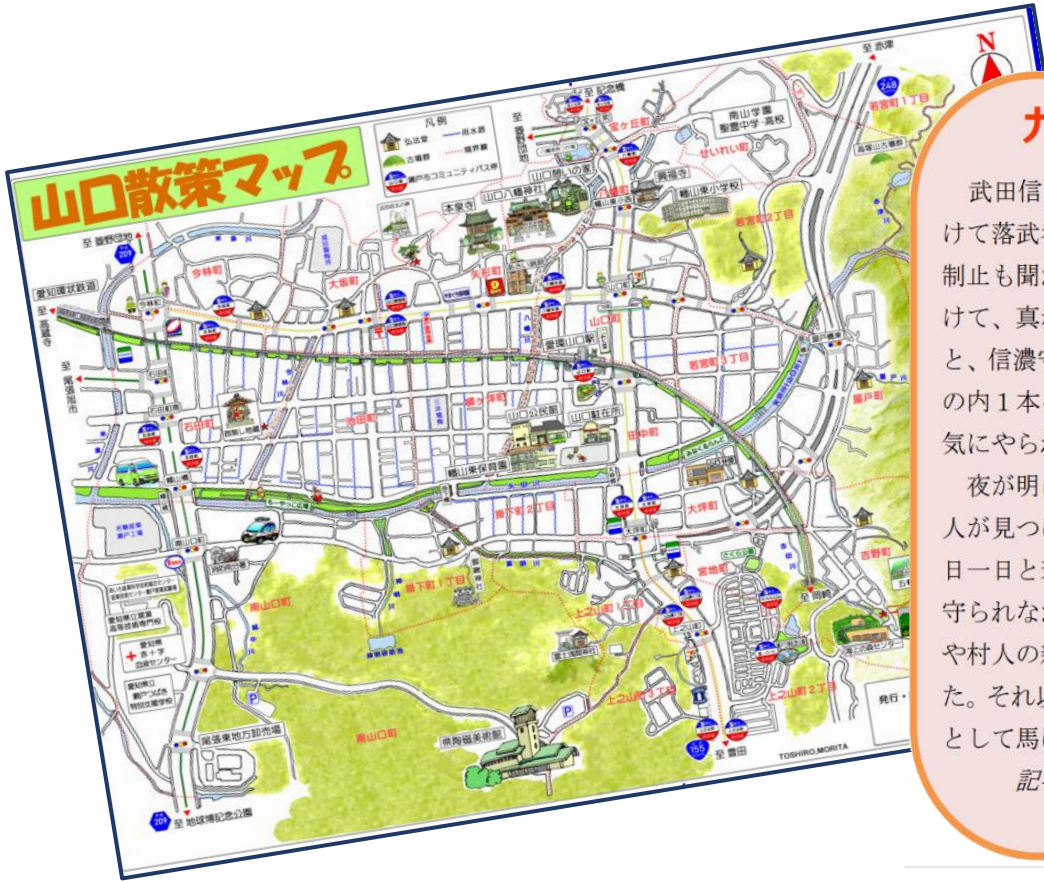
山口散策マップ 山口の史跡紹介・やまぐち再発見

山口地区は、縄文・弥生時代にはすでに集落が形成されており、長い歴史を刻んで今日にいたっています。

今回、広報やまぐち特別編集号として、山口に残る史跡の紹介に合わせて、新しい情報を書き加えた「山口散策マップ」を作成しました。更に広報やまぐちで連載中の「やまぐち再発見」記事も再掲しました。

”ふるさと”を見直していただく資料としてお使いいただければ幸いです。

この地図を携えて”このまち”を歩いていただければ、きっと新しい発見に出会えることでしょう。



九本の矢の伝説

武田信玄の家来に山田信濃守（しなのかみ）という武将がいました。葵の北条合戦（西暦1553年）に負けて落武者となった信濃守は、愛馬「山颯（やまかぜ）」に跨り逃げる途中のこと、突如、山颯が信濃守の制止も聞かずに猿投山の頂上へと一気にかけ登ってしまった。そこへ突然、金色の大蛇が現れ、信濃守めがけて、真赤な炎とともに毒をはきかけてきた。「怪物何ぞ」と、信濃守は信玄からもらった10本の銀鷹（ぎんよう）の矢の内1本を大蛇めがけて射て見事に仕留めたものの、大蛇の毒気にやられ、桜ヶ池に落ちて気を失ってしまいました。

夜が明けて、倒れている信濃守を山草刈りに来た山口村の村人が見つけ、みんなで助けあげ、ねんごろに介抱されたものの、日一日と衰え、弘治2年（西暦1556年）10月、村人たちに見守られながら息を引き取りました。死に臨んで信濃守は、庄屋や村人の親切に厚く感謝し、お礼として750両を差し出しました。それ以後、感謝の意と勇敢な信濃守を讃えるために、残された9本の矢を山口村祭礼に「標具（だし）」として馬に飾るようになったと伝えられています。

記事参考 山口地域まちづくり協議会発行「天狗ずいはん記」から
また、山口郷土資料館館長 鈴木真人さんから資料のご提供を頂きました。



山口八幡社



桜の山口八幡社

創建は1223年との記録が残り、神功皇后、田寸津比売命等が祭神と言われています。境内には、山口稻荷、山口天神等も祭られています。初詣、茅の輪くぐり、秋の大祭などに多くのお参りがあります。

また、境内から八幡川沿いの桜は、春には満爛の装いで山口の名所と言えます。

首無し地蔵



石田町地内、今林川の右岸の住宅街に木立に囲まれた小さなお堂があります。「首無し地蔵」と名付けられ、近所の皆さんに大切に祀られています。

怖いような名前ですが、病気を治してくださり、また、乳の出ない母親に母乳を授けてくださるという言い伝えのある、ありがたいお地蔵さんです。

天和の昔、この山口の地に大洪水があり、村の家や橋が流され多くの死者が出た災害がありました。やがて雨が止み、水が引くと、見回りの村人たちが瓦礫の中に埋まったお地蔵さんを見つけました。そのお地蔵さんには、なんと首がなかった。「あの恐ろしい大水で流され、無事だったかわいそうなお地蔵さんだ。お祀りしよう。」と皆で相談して、田んぼのすみに祀ったそうです。



その後、「このお地蔵さんをお願いするとよく病気を治して下さる。」という噂が広まり、お参りする人が多くなったとのことです。また、白い布で作った乳房をお地蔵さまの肩にかけ、白米を供え、そのおさがりで七日間お粥を作って食べると、母乳が出るようになると言われていました。

～参考文献 大津文市著「天狗ずいはん記」～

本泉寺

真宗高田派専修寺の末寺として、創建は1283年、開祖は山田三郎泰親です。本尊は慈覚大師作の阿弥陀如来です。

境内の観音堂には、十一面観世音菩薩立像と薬師如来像が祭られています。御堂の天井に描かれた天井絵もみごとです。



本泉寺



観音堂

物見山

山口を見下ろす標高 312m の山嶺です。武田信玄が物見（斥候※偵察場所）を置いたのでこの地名がついたと言われています。山頂にはのろしを上げたと言われる岩屋石垣が残り、尾張、三河の城が眺望できることから七城が峰や十城が峰とも呼ばれています。



雪の朝の物見山眺望 写真提供（海上の森センター）

五輪塚

鎌倉時代に流行した墓標の様式で、森川（松原）下総守とその家来たちの供養塔と言われています。

森川公は山口の開墾や灌漑用水を作ることに尽力され、今でも若宮町から今林町に至る農業用水路に「森川井（ゆ）」の名前が残っています。



雪の朝の五輪塚 写真提供（海上の森センター）

多度神社

武田軍に敗れた飯盛山城主鈴木重直の一族が海上に落ちのび、海上の鈴木姓の祖と言われています。その鈴木一族が建立したと言われていますが、時期は不明です。



御鋤神社

大正 3 年 1 月 掛下島の一同が災厄と疫病除を願い、津島神社分身を祭りました。

また、大正 4 年 4 月に五穀豊穰を祈り、須原神社を合祀し御鋤神社としました。



挙母街道～省営バス（国鉄・JR）の話

やまぐち
再発見

山口地区の中心を南北に通る国道 1 5 5 号（2 4 8 号）は、かつては挙母（ころも）街道と呼ばれた道です。この道を通して永く運ばれたのは陶器を焼く燃料のまきでした。そのまきを馬の背中につけ、細い道を瀬戸まで運んでいたそうです。

明治 2 0 年頃から馬車が通るようになったものの、瀬戸坂があまりにも急だったので、明治 3 0 年台にこの瀬戸坂を比較的楽な坂道に作り直しています。大正 3 年頃には新道として、現在の場所に移されています。

瀬戸の陶磁器産業の発展により、新道はそれまで以上に馬車の交通量が増え、そして大正から昭和に移る頃、交通主体が馬車から自動車に移り変わりました。

昭和 5 年 1 0 月には、日本で初めての省営バス（国鉄バス・JR バス）が岡崎～多治見間を 1 日 8 往復の路線営業が開始されました。ガソリンエンジンを搭載した 2 0 名乗りの国産車両でした。この第 1 号の車両は、現在でも名古屋市「リニア・鉄道館」に展示保存されています。

また、この路線において、昭和 1 5 年 6 月記念橋へ向かうバスが、東本町付近で故障により漏れたガソリンに引火炎上し、乗客 6 名が焼死、1 0 数名が重軽傷を負うという悲惨な事故が発生しています。当時は「火だるま事件」と注目されています。

昭和 6 3 年 1 月愛知環状鉄道が開業し、利用者が激減したことで、平成 1 4 年 4 月 JR バスは路線廃止となり、その役目を終わりました。

——参考文献 やまぐち今昔 大津文市著——



省営バス第 1 号車

※「リニア・鉄道館」から写真をご提供いただきました。

やまぐち
再発見

山口のお富士さん

山口の南、上之山町に小高い山があります。山頂に富士浅間神社と御嶽神社を祀るこの山は、通称「お富士さん」と呼ばれています。昔から山口に住む人々に親しまれ、広場もあることから、近所の子供達の遊び場であり、また保育園の散歩コースでもありました。

この山に富士浅間神社が祀られたのは、かつて山口川の南に住んでいた金谷一族に、永らく男の子が生まれなかったことがあり将来を危ぶみ、駿河の本宮浅間神社から祭神木花開耶姫命(コノハナサクヤヒメノミコト)の分神を迎え、一族の稚児の神として祀りお堂を建立したそうです。

この神社は、今では上之山町の皆さんで管理されており、神事として「春祭り」と「夏祭り」が行われています。中でも「春祭り」は盛大で、春弘法開催日の午後から「餅投げ神事」を行っています。参加者は町内だけにとどまらず、近隣の町内の人も参加して、毎年 3 0 0 人ほどが集まり賑わっています。



また「お富士さん」の山頂には、山口が日本で最初に珪砂（ガラス材料）が発見された場所であることを標す、石碑が建てられています。

参考文献 ～天狗ずいはん記～大津文市著

山口郷土資料館だより第 18 号

やまぐち
再発見

山口川の氾濫

山口川は、篠田川と赤津川が海上四沢（よつざわ）で合流して山口川と呼ばれます。それに海上川、八幡川、吉田川、薬師川、神明川、越中川、今林川などの支流を集め、香流川と合流して矢田川となり、最終は庄内川となって伊勢湾に注いでいます。

現在の山口川は、昭和の初期に大規模な河川工事が行われたことで、立派な堤防道路もある真直ぐとした川の形となっていますが、それ以前は、川底が浅く流れは蛇行し、自然にできた堤防のままで、たびたび氾濫を起こしていました。

明和 4 年（西暦 1767 年）7 月、三日間にわたる大雨により赤津万徳寺前で山崩れが発生し、自然堤防が作られ、その決壊により大災害となりました。山口本泉寺の過去帳には、24 名が水死と記されており、海部郡光専寺の過去帳には下流域で数千人の人命被害があったと記されています。

（天和 2 年（西暦 1682 年）の村八合という災害については、山口地内だけで約 300 人の命が失われたとの文献がありますが、他の書物にその記述が見つけられないそうです。）

現在の山口川は、河川管理や海上山林の状況から、洪水災害の危険性は稀と言われていますが、異常気象による長雨、集中豪雨如何により、もう起こらないとは限りません。特に川の近くにお住まいの方は、台風や大雨の際に、迅速な避難行動がとれるよう、避難勧告や避難指示などの情報収集を積極的に行ってください。



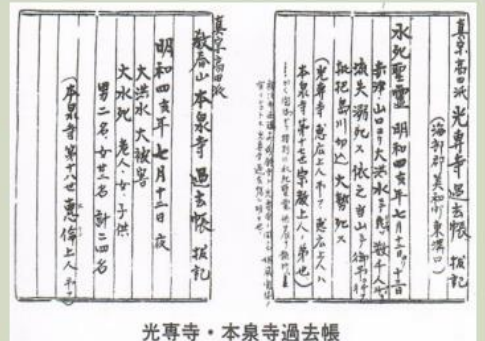
北も～やっこ広場から望む

参考文献 大津文市著「やまぐち今昔」

幡山地区連合自治会発刊「幡山村村誌」

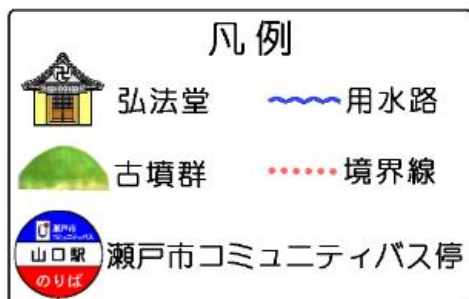
資料提供・監修

山口郷土資料館館長 鈴木真人さん



光専寺・本泉寺過去帳

山口散策マップ



発行・編集 山口も〜やっこ地域力協議会
広報やまぐち編集委員会

2021. 3

TOSHIRO, MORITA